

第6学年 国語科学習指導案

に組 男子 17 名 女子 16 名 計 33 名

指導者 中 野 晶 仁

1 単 元 自分の感じたことを、朗読で表現しよう(教材「やまなし」光村 6 年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第5学年の「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」の学習で、登場人物の関係や情景描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる能力を身に付けてきている。また、第5学年の「特色をとらえながら読み、物語を紹介しよう」の学習で、紹介するために本を選んで形式を比べ、共通点や相違点をまとめて交流しようとする態度を身に付けてきている。さらに、物語を読み、その解釈を友達と比較しながら伝え合いたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、感性・情緒の側面から、表現の効果を基に物語の全体像を具体的に想像し、場面と場面を比較したり資料と関係付けて読んだりして作品の特徴や作者の思いを捉える能力や、自分なりの解釈を基に朗読し、その違いを伝え合おうとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「自分の感じたことを、朗読で表現しよう」(教材「やまなし」)を設定した。

この学習は、登場人物や、登場人物相互の関係から生き方を学ぶ単元「登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう」へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「やまなし」は、「生と死」「光と影」「奪うものと与えるもの」といった観念が、五月と十二月で対比的に表されている文学的文章である。作者の信念や生きることに対する思いが表れている本教材は、自分の生き方について考え始めるこの期の子どもたちに適している。また、賢治独特の比喻や色彩等の表現の工夫がちりばめられており、抽象的な思考の発達が見られるこの期の子どもたちが読み進めるのに適している。

そこで、本単元では、教材の特徴や作者の思いを捉えさせるために、比喻・色彩・擬声語・擬態語などの形式に着目させ、情景を想像させたり、宮沢賢治に関する資料を参考に賢治の人物像を捉えさせたりしながら読み進めさせる。その際、自分の好きな場面を朗読することを単元の言語活動として設定する。その上で、友達に分かりやすく朗読するために、どのように「やまなし」を解釈すればよいのかという課題意識をもたせ、必要感をもって教材文を読ませることが大切である。

具体的には、まず、教材に対する意欲付けを図るために、試しの朗読をさせ、朗読の観点に基づいてうまく朗読できたこととできなかったことを話し合わせることで、朗読するためには優れた表現を味わい内容を解釈する必要があることを確認する。また、宮沢賢治独特の表現の工夫に関心をもたせるために、教師が選んだ宮沢賢治の文学作品を紹介し、並行読書を始めさせる。

次に、宮沢賢治の生き方や考え方を捉えさせるために、資料として賢治の伝記「イーハトーブの夢」や写真・年表等を示し、賢治紹介カードをまとめさせる。また、「やまなし」を自分なりに解釈させるために、水中の様子を表す言葉の意味を考えて五月と十二月場面の様子を比較させたり、賢治の生き方・考え方を基に「やまなし」という題名の意味を考えさせたりする。

さらに、それぞれの解釈を基に朗読させ、互いの朗読のよさを認め合わせることで、学習に対する成就感や達成感を味わわせるとともに、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。

これらの学習を通して、感情や想像を言葉にする力や、言葉を通じて伝え合う力を高めることができる。その中でも、文学的文章を読む際に、比喻・色彩・擬声語・擬態語などの表現の工夫に着目し、場面の情景を想像したことを既習・他者・教材とつなぎ、自分の考えを強固・付加・修正しながら読むことができるようにする。このような学習を積み重ねることで、言葉同士の関係性を問い直して考えを形成し、自分の思いや考えを深めることができるようになっていく。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元や本教材に対してどのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、以下の通りである。(数字は、人数を表す。)

① 初発の感想(複数回答)		③ 表現の工夫(複数回答)	
・ クラムボンとは何か。(22) ・ 難しくてよく分からなかった。(15) ・ かにの親子がおもしろい。(9) ・ 比喩や色彩等の表現が豊か。(7) ・ クラムボンが死んで悲しい。(3)		・ 色彩表現(22) ・ 比喩(19) ・ 擬声語・擬態語(11) ・ 擬人法(7) ・ 体言止め(3) ・ かにの子どもっぽい話し方(2)	
② 各場面はどのような世界か。		④ 朗読について	
【五月】	【十二月】	【朗読の経験】 ・ ある(19) ・ ない(14) 【朗読の際に気を付けること(複数回答)】 ・ 強弱を付ける(15) ・ 間をとる(12) ・ 作者の思いを込める(5) ・ 相手に分かりやすく読む(5)	
・ こわい世界(7) ・ 弱肉強食の世界(3) ・ 活発な世界(3) ・ 美しい世界(3) ・ 敵が多い世界(3) ・ その他(13) ・ 無回答(1)	・ 平和な世界(7) ・ 明るい世界(3) ・ おだやかな世界(3) ・ きれいな世界(2) ・ 静かな世界(2) ・ その他(10) ・ 無回答(6)		
⑤ 宮沢賢治の作品の読書経験(複数回答)		⑥ 難語句(複数回答)	
・ 雨ニモマケズの詩(20) ・ 注文の多い料理店(12) ・ 銀河鉄道の夜(7) ・ 経験無し(5)		・ クラムボン(27) ・ 金雲母(11) ・ イサド(7) ・ もかもか(6) ・ 幻灯(20) ・ かば(10) ・ ひるがえす(6) ・ 金剛石(5) ・ やまなし(13) ・ 居すくまる(7) ・ 鋼(6) ・ 水銀(4)	

子どもたちの多くは、物語の冒頭に登場する「クラムボン」に着目しているが、どのようなものなのか想像しようとはしていない(①)。これは、「クラムボン」が作者の造語であり、自分の経験上初めて聞いた言葉であるからと考える。また、教材の内容に関して難しいと感じている子どもが多い(①)。これは、上述のクラムボンを含めてラムネの瓶・金雲母・光のあみ等の耳慣れない言葉が多用されていることが、物語を難しく感じさせているためであると考え。各場面の世界観については、五月については否定的、十二月については肯定的に受け止めている児童が半数ほどいる(②)。これは、一読であっても、かにの親子の様子やカワセミ・やまなし等の役割について、大まかに内容を捉えることができているためであると考え。表現の工夫については、色彩・比喩等技法に気付いている児童が多い反面、全体的な構成の工夫については捉えることができていない(③)。朗読については半数ほどの児童が経験しているものの、強弱・間など音読で気を付けることが書かれている(④)。これは、現段階では子どもに音読と朗読の区別が無いためであると考え。宮沢賢治の作品の読書経験については個人差があり、複数読んでいる児童とあまり読んでいない児童とに別れた(⑤)。難語句については、作者の造語・耳慣れない言葉・擬態語等が挙げられている(⑥)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもが試しの朗読から課題を見だし、物語を自分なりに解釈しながら読み、その解釈を朗読に生かすことができるよう、指導内容設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考え。

ア 教材への関心を高めさせるために、朗読の際には、「どこを読むか、どのような賢治の思いや願いを想像したか、どのように読むか」を朗読の観点とし、「やまなし」の内容を自分なりに解釈しなければならないことに気付かせ、教材を読む必要感をもたせる。

イ 教材の内容を理解させるために、「トブン」という擬声語や「黒いコンパスのような」という比喩・色彩の表現など、作者独特の表現の工夫をどのように解釈すればよいのか話し合わせ、自分の考えを再構築させながら読ませる。

ウ 学習に対する有用感や成就感を味わわせ、今後の読みへとつなげるために、朗読を通して互いの解釈を交流した楽しさを話し合わせたり、身に付けた国語の能力を振り返らせたりする。

3 目 標

- (1) 宮沢賢治に関心をもち、自分なりの解釈を基に「やまなし」を朗読しようとするができる。
- (2) 場面と場面を比較したり、宮沢賢治の生き方・考え方と「やまなし」を関係付けたりして、作者の思いを捉えることができる。
- (3) ・ 「やまなし」の全体像を具体的に想像し、教材文の世界観を読み取ることができる。
・ 比喩・色彩等の優れた表現に気づき、その効果を考えながら朗読することができる。

4 指導計画(全8時間)

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす①	「やまなし」の内容が分からないと、朗読することはできないなあ。比喩や難しい言葉などがあって、内容もよく分からないよ。	1 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し ○ 教材との出会い ・ 教材文に対する初発の感想 ・ 試行（試しの朗読） ・ 朗読の観点の確認 ・ 単元の学習課題の設定	○ 単元や教材への興味・関心を高め、課題意識をもたせるために、試しの朗読をしよううまくいったことといかなかったことを話し合うことで、内容を理解しないと朗読できないことに気付かせる。
	賢治は、自分を犠牲にしてでも他人のためになることをしようとする人なんだね。	自分の思いが伝わる朗読をするには、どのように読めばよいのだろうか。	○ 賢治の生き方・考え方を捉えさせるために、「イーハトーブの夢」等を参考に年表・名言・すごいと思った行動などをまとめる紹介カードを作成させる。
しらべる・ふかめる⑥	五月は、クラムボンが死んだり、ぎらぎらしたなどの表現があって怖い感じがしたりするから、恐ろしい世界だと思う。	2～5 限定された範囲での試行錯誤(本時) ○ 宮沢賢治の生き方・考え方の把握 「宮沢賢治は、どのような生き方・考え方をしていたのか。」 ・ 「イーハトーブの夢」・写真・年表等を基にした、賢治紹介カードの作成 ○ 「やまなし」の読み取り 「五月の谷川は、かにたちにとって、どのような世界といえるだろうか。」 「十二月の谷川は、かにたちにとって、どのような世界といえるだろうか。」 「五月と十二月は、どんな共通点・相違点があるのだろうか。」	○ 比喩や色彩等の表現の効果を考えさせるために、並行読書を通して賢治独特の表現や世界観に触れさせ、描かれている情景を想像させる。
	十二月は、いい匂いがしてきたり、明るい色が使われていたりするから、おだやかな世界といえると思う。	6 広い場面での試行錯誤 「なぜ、賢治は、『やまなし』という題を付けたのだろうか。」 ・ 賢治の生き方・考え方と、教材「やまなし」との関係付け	○ 内容と形式の両面から言葉を吟味させるために、五月・十二月それぞれどのような世界なのかを考えさせる学習課題を設定し、カワセミややまなしの登場場面における作者の表現の工夫を話し合わせ、その効果を考えさせる。
ふりかえる・いかす①	やまなしがお酒になって人を幸せにするのは、賢治の生き方と重なるぞ。	7 試行の見直し 「自分の読みたい場面を、どのように朗読すればよいのだろうか。」 ・ 朗読記号の記入 ・ 朗読の練習	○ 言葉と言葉をつなぎながら自分の考えを深めていかせるために、直感を基に見いだした根拠を賢治の生き方・考え方(既習)、やまなしという題名の意味(教材)、友達の考え(他者)を関係付けて自分の考えを再構築させ、自分なりの解釈をもたせる。
	「トブン」というやまなしが落ちてくるところは、幸せがふってくるのだから、柔らかい感じで読もうかな。	作者の生き方・考え方や表現の工夫から作者の思いを捉える。	○ 単元の学習を通して身に付いた国語の能力を自覚させるために、自分なりの解釈を基に朗読したい場面について朗読記号を付けさせ、その朗読記号を振った理由を考えさせる。
	朗読をすると、友達の読み方と自分の読み方の違いがあっておもしろかった。これからも、友達がどんな解釈をしたのか伝え合って楽しみたい。	8 活用場面の想起 ・ 朗読発表会と相互評価 ・ 単元の振り返り（自己評価） ・ 今後の生活に生かせることの話合い	○ 学習に対する有用感や成就感を味わわせるために、朗読発表会を通して自他の朗読の違いから相手の解釈や観点に基づいた朗読のよさを伝え合う相互評価をさせたり、自分の朗読を自己評価させたりする。また、自分の考えを再構築させたことに対する価値付け・称賛を行う。

5 本 時(4／8)

(1) 目 標

五月と十二月の谷川の様子を比較しながら十二月の情景を想像することを通して、色彩の明るさややまなしが恵みを与えてくれていることに気づき、十二月の解釈を説明することができる。

(2) 本時の展開に当たって

十二月における「やまなし」の役割を捉えさせるために、やまなしとカワセミを比較させることで命を与えている存在であることに気付かせたり、「トブン」という擬声語に着目させて『ドボン』という音であってもよいか。」と問うことで、作者の意図を考えさせたりする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 前時の五月の世界の解釈を振り返り、学習課題を設定する。  五月の世界は、「おそろしい世界」「こわい世界」「弱肉強食の世界」とかがあったね。十二月は、どんな世界だろう。 十二月の谷川は、かにたちにとって、どのような世界といえるだろうか。	(分) ↑ 10 ↓	○ 教材への興味・関心を高めさせるために、前時を振り返らせ、五月は色彩や擬態語等の表現を基に様子を想像することができたことを確認し、十二月の情景を想像したいという思いをもたせる。 ○ 比喩・色彩・擬声語等の作者の表現の工夫に着目して言葉を吟味することにつなげるために、十二月の世界観を自分なりに解釈させる学習課題を設定する。
	2 課題解決の見通しをもつ。 3 十二月の世界がどのような世界なのか話し合う。 ひ ひとり考える  やまなしのことを「いいにおいだろう。」と言っているから、食べ物に不安のない豊かな世界だと言えるのではないかな。 友達の考えと比べる と み みんなの考えと比べる 「月光の虹」は、とてもきれいなイメージ。夜なのに明るい世界。安心して暮らせそう。【色】 「ドボン」だと、ずっしり重たいように思えるけれど、「トブン」は、柔らかい感じだね。【音】 「水はサラサラ鳴り」から、静かな様子が分かるよ。動き回る生物もいなくて、落ち着いた世界みたいだね。【音】 五月のカワセミは命を奪ったけど、やまなしは命を与える存在。二日も待てるって、平和だなあ。【五月との比較】 ひ 自分の考えをまとめ、直感の考えと比較する  透き通った水の中で静かに落ち着いている感じがする。食べ物も天井から落ちてきて二日も待てるみたいだし、安全な世界だな。	↑ 25 ↓	○ 自分の考えを明確にさせるために、「どのような世界といえるのか」に対する直感をノートに書かせた上で、直感の根拠となる叙述を探し、その理由を考えさせる。 ○ 作者の表現の工夫や効果に気付かせるために、「カワセミが天井から来たときはどんな様子だったか。」と既習とつなぐ問いを行う。その際、やまなしの登場場面のおだやかな様子を捉えさせるために、五月と十二月を比較させ、互いの考えを関係付けながら交流する「ひとみ学習」を行わせる。 ○ 「やまなし」を登場させた作者の意図を考えさせるために、「トブン」という表現に着目させ、その部分を朗読させたり「ドボン」という言葉と比較させたりすることで、柔らかく肯定的なイメージをもつことに気付かせる。 ○ 自分の考えを再構築させるために、みんなで話し合った中で出てきた「平和な世界」「豊かな世界」「落ち着いた世界」等の中から最も学習課題に対する答えとして適切と判断することができるか考えさせた上で、自分なりの学習のまとめを書かせる。 ○ 学び合いのよさを実感させるために、どのような力が身に付いたのか・誰のどのような考えで自分の考えが変容したのかを振り返らせる。また、本時の学習を次時につなげさせるために、次時に行いたい学習について発表させる。
しらべる・ふかめる	4 学習のまとめを行う。 やまなしが命をあたえてくれたり、水中の様子が落ち着いていたりする「平和な世界」といえる。	↑ 10 ↓	
ふりかえる・いかす	5 本時の学習を振り返り、次時の学習に解決したいことを発表し合う。  五月のカワセミと比較したり、音の表現から考えたりして十二月の様子が分かった。次は、共通点も考えたいな。		